

(様式第4号)

## 上田市国土強靱化地域計画策定委員会 会議概要

1 審議会名	第2回上田市国土強靱化地域計画策定委員会
2 日時	令和3年3月23日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田駅前ビル パレオ 2階会議室
4 出席者	清水茂会長、中村彰副会長、鈴木英昭委員（青木隆代理）、蓬田陽委員、矢島昭徳委員、五島幸典委員、笠原邦正委員、大厩朋幸委員（平林太代理）、田中聖志委員、岡田宝正委員、和田宏一委員、中嶋政幸オブザーバー、浮田博文オブザーバー（小林卓生代理）
5 市側出席者	都市建設部長、危機管理防災課長、危機管理防災課長補佐、政策企画課長補佐、土木課長、土木課長補佐
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人
8 会議概要作成年月日	令和3年4月12日

協 議 事 項 等

- 1 あいさつ（都市建設部長）
  - 2 委員会成立宣言
  - 3 議事「資料の説明等」「本日御議論いただきたい論点」
    - ① 「総合目標」
    - ② 「想定するリスク（災害等）」
- 資料1・2について事務局から説明。

### 【意見・質問】

（会長）①の「総合目標」について事務局から「総合目標」のほかに、この計画を市民に分かりやすく伝えるために、「サブタイトル」を加えるとの提案があった。②の「想定するリスク（災害等）」については、上田市では大規模自然災害を対象とし、説明のあった規模の地震、風水害・土砂災害、火山の噴火、大雪と複合災害の5種類の災害を本計画の「想定するリスク」とする説明があったが、これらを踏まえて意見・質問をお願いしたい。

（委員）「市民力」「地域力」「行政力」それぞれに「力」という文字を入れている狙いは何かあるか。

（事務局）上田市総合計画との調和を図っており、市民総参加で防災に取り組むという意味も含めて、「力」としている。

（委員）「総参加」と「市民総参加」があり、「総参加」としている意図は何か。

（事務局）「総参加」という中で、上田市在住の方や上田市に通勤している方等、市民だけに限ったものではないと考え、あえて「市民」は外している。

（委員）市民に広く伝えていくうえで、「総参加」という言葉は難しい気がする。市民だけでなく、企業にも参加してもらおうという意味もある中で、「みんなで」というような、もっと簡単に馴染みやすい表現にはできないか。よりわかりやすくするためにひらがな表記を検討してみてはどうか。

（事務局）「参加」という言葉を入れたい思いがあり、そこに「みんなで」という意味で「総参加」としている。

(会長) 簡潔なタイトルにするために漢字を用いた方がよいのか、わかりやすさを優先してひらがなでわかりやすい文章の方がよいのかということもある。

(委員) 「参加」という意味合いも大切だが、「自助」ということも含まれた計画だと思うので、必ずしも「参加」という言葉にこだわることもないのではないかと。「共助」「公助」もあるので「参加」も重要ではあるが。

(事務局) 「総参加」という言葉に固執しているわけではないので、意見を取り入れて決定したい。

(委員) 災害弱者に対して、安心できるような表現を取り入れてほしい。勇気づけるような表現。

(事務局) 検討する。

(会長) ここまで出された意見等については、今後の計画策定に反映していただき、事務局から提案のあった目標を、サブタイトルも含め、再度検討したうえでこの計画の「総合目標」に設定して、今後計画の策定を進めていくということによいか。

(委員) 異議なし。

(委員) 想定するリスクの風水害について、中心市街地では豪雨や台風災害などが他人事になっている感じがする。中心市街地でも内水氾濫の恐れはあるが、これは風水害に含まれるという解釈によいか。

(事務局) 内水氾濫についても風水害に含まれるということで御理解いただきたい。

(委員) 風水害について、長野県と比べて上田市では「風」を入れているが、これは地域特有の理由があるのか。

(事務局) 上田市は、通常風の強い地域ではないと認識しているが、夏場にダウンバーストが発生したこともある。また千曲川下流からの風や昨年度の台風災害もある中で、あえて「風」という文字も加えて提案をした。

(委員) 停電や通行止めについては、雨よりもむしろ風による場合の方が多いと思う。過去の災害について、風災害についてもまとめてもらえるといいと思う。

(事務局) 対応する。

(会長) ここまで出された意見等については、今後の計画策定に反映していただき、事務局から提案のあった大規模自然災害を、再度検討したうえでこの計画の「想定するリスク」に設定し、今後計画の策定を進めていくということによいか。

(委員) 異議なし。

### ③ 「脆弱性評価」

- 1) 「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）の設定について」
- 2) 「施策分野の設定について」
- 3) 「脆弱性の評価方法と考え方について」

資料3・4・5について事務局から説明。

【意見・質問】

(会長) 意見・質問を受け付ける前に、本委員会の開催前に寄せられた意見等について事務局から報告願います。

(事務局) 本日まで出席のオブザーバー代理より御意見をいただいているので願います。

(オブザーバー代理) 河川管理者と沿線市町村だけではなく、流域全体で洪水を防ぐ、「流域治水」という考えがある。上田市も参加している中で、千曲川流域の流域治水協議会が立ち上がった。洪水を防ぐ目的で、上田市からもいろんな意見出ているが、国土強靱化と重なる部分が多くあるため、相互に整合を図ってほしい。

(事務局) 現段階でも「流域治水」を意識した項目もあるが、今後進めていく中でも整合を図りながら策定していく。

(事務局) 本日欠席の委員から意見報告をいただいているので紹介します。

上田市は約7割が森林で、その中でも個人所有の里山が荒れている。河川の堤防を強化することも非常に重要であるが、森林の保水力を高めることで出水量を減らすことや、流域治水の視点から、千曲川上流の自治体と連携していくことが大切だと考えています。また、水害だけでなく、その他の災害時にどのように市民に情報を伝え、避難の誘導を行うか、事前に検討し、また台風19号の問題を検証し、計画が策定されることを望む。

(事務局) 市内約7割が森林というのが上田市の地域特性である。森林の管理や整備についても計画に入れている。情報伝達・伝達方法では避難指示が出てから、避難をしなかった人もいたという中で、上田市にとって課題だと思っている。ソフト対策ということで計画に入れられるよう検討していきたい。

(会長) ③の「脆弱性の評価」について、1点目の「起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)の設定について」、事務局から7つの基本目標に対して、発生する災害別に、段階的に発生する事象に対して、それぞれ「リスクシナリオ」を設定したとの説明があったが、市が設定した「起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)」について、意見・質問をお願いしたい。

(委員) 大規模災害のリスクシナリオという中で、東日本大震災や台風19号等、被災直後ではなく、一週間、10日ほど経ってから避難所や避難を余儀なくされた方々で災害関連死が多く出てくる。このことについてはリスクシナリオとして含まれているか。

(事務局) 避難生活の中での発生や、仮設住宅での発生が考えられる。直接的な表現ができるか難しいところもあるが、内容的に含められるように検討をしていきたい。

(会長) 案の中にある「二次被害」というところに含まれるのではないか。

(事務局) 二次被害という部分と2-6の部分の関係すると思う。

(委員) 上田市の地域特性の視点として、森林の話が出たが、千曲川という大きな河川のある市としての特性を取り入れた部分はあるか。

(事務局) 千曲川は長野県の特性として捉えているため、上田市の特性としては取り入れていない。

(委員) 風水害の風害については地域特性ではないか。

(事務局) 直接的な表現はないが、風による倒木が多い中で、電気や通信設備の被災という部分に含まれると考えている。

(委員) 千曲川に関して、台風19号のときに、県含め上田市でも千曲川に架かる橋梁について、通行止めを行った。併せて、堤防道路についても通行止めを行った。実際には橋梁に関する被害があつてから通行止めをしたということがあり、もっと早く通行止めをできなかったのかという思いがある。通行止めもそうだが、逆に通行止めを解除するのも早すぎたのではないかと感じている。地域特有の問題点とすると、橋梁と堤防道路の通行止めについて、事務局で地域特性として検討してもらいたいと思う。

(会長) 流通・経済の停滞という問題以前に人命を守ることにつながる課題だと思う。

(事務局) この問題につきまして、ハード面とソフト面の両方から検討が必要だと思っている。通行止めについては、実施するタイミングと解除するタイミング、管理側の判断における基準等検討していく。

(会長) 橋梁・道路について、必ずしも上田市管理とは限らないと思うが、そういった場合の対応はどうなっているのか。

(事務局) その点に関しては横の連携が重要になってくる。大災害時には災害対策本部を設置するが、過去の災害時に他の機関にも対策本部に入ってもらい対応していた。市管理の施設に関する情報だけでなく、他の機関が管理する施設等についても情報を共有し対応していく旨を取り入れられるよう検討していく。

(委員) 台風19号の対策本部には消防団も参加をした。対策本部に各機関が集まることはいいと思ったが、訓練等でこういった連携を想定していなかったのでもうまいかなということもあった。台風19号の対策本部での課題等を踏まえて検討してもらいたい。

(委員) 実際は、被害があつてから通行止めをしたというのが現実。河川に関することと言えば、水位で判断できるのだから、しっかりと基準を設定し、周知をしてほしい。通行止めはものすごい影響があるが、人命被害があつてからでは遅い。併せて、どのような状況まで落ち着いたらパトロールをして、解除するかまでしっかりと決めて、周知をしてほしい。洪水や増水は引く時が怖い。台風19号の時も、水位のピークは夜9時頃だったが、別所線の橋が落ちたのは翌朝の6時ごろであった。

(委員) 流域治水と絡めて検討すれば、上流の自治体等からの情報等もスムーズに入ってくるようになると思う。

(会長) これらの意見について、明文化することを含め事務局で再度検討をお願いしたい。

(会長) 2点目の「施策分野の設定について」

(委員) 自衛隊・警察・消防ということで、消防団が消防とひとくくりにされてしまうことが多々あるが、「共助」の中に町内会や商工会等の地域団体として消防団を明記できないか。「共助」の8割くらいは消防団ではないかと考えている。消防団がそのまま組織の下につくのではなく、「公助」の隙間を埋めていくようなイメージ。そのような表現をできないか。各団体との連携が一番取りやすく、またそれが一番力を発揮できる団体だと思う。

(事務局) 計画の中で反映させたい。

(会長) 3点目の「脆弱性の評価方法と考え方について」

(委員) 住宅や多数の方が利用する施設等の倒壊による死者の発生という中で、社会教育施設の老朽化対策という問題もあるが、社会教育施設の中には社会福祉施設が入っているのかどうか、福祉センターや老人センターが含まれるのか。

(事務局) 主だった記載はないが、検討し追記していきたいと考えている。

(委員) 他市町村では具体的な設定をしていない中で、上田市がこれだけ検討しているのはいいことだと思う。

(事務局) 自主防災組織を中心とした地域防災力を高めていく、また地域住民の防災意識を高めていくことが重要になってくる。昨今のコロナ禍で難しくなっているが、出前講座等で防災に関する話を要望されることも多くなっている。地域の皆さんと協力しながら意識を高めていければと考えている。

(会長) これらの意見については、今後各担当部局で行います「脆弱性の評価」に反映していただき、事務局から提案のあった「脆弱性の評価の考え方や項目」により、各担当部局で脆弱性評価を行い、計画の策定を進めていくということで良いか。

(委員) 異議なし。

(会長) その他の意見・質問について

(委員) この計画の進捗管理について、現時点での考えを教えてください。

(事務局) 数値的な指標を設定し、それに基づいて進捗管理を図っていきたいと考えている。毎年度末に評価を行い、必要に応じて内容の変更や追記等対応していく。

(委員) 達成目標の中に、消防団員の数についての項目があった。長野県の目標に対して、上田市はどのように考えているのか。

(事務局) 次回の説明とさせていただく。